

# あだたら

五月十五日(日)

第六十八回安達太良山開き

三パーティでパトロール実施

報告 編集部

第403号  
発行所 山形県次田郡  
山形市あだたら  
編集 山形県山形市



2022/05/15 13:14

峰の辻で集合写真、今回の山開き写真で一番良い写真

第六十八回安達太良山開きは、五月十五日(日)に開催された。二〇二〇年の第六六回から、新型コロナウイルス対策で、山頂での行事は中止されたが、今年から安全祈願祭だけは元に戻った。会報にコロナ関連記事が最初に出たのは、二〇二〇年四月の三七八号、厚労省の「三月



〇〇さん(塩親協)



〇〇会長



今年のベナント  
2021年に『登られた山』ランキング、東北エリア第1位(YAMAP調べ)

班は奥岳↓くるがね小屋↓山頂(4名)、C班は塩沢登山口↓湯川溪谷↓くるがね小屋↓山頂(3名)。

●編集部連絡先  
二本松市部内11515  
0243(22)4245  
Fax可 渡辺 正

つを密を避けましよう」のポスター。次号が第六六回山開き、写真見るとマスク一般的で無かった。今年、当会は昨年引き継ぎ三パーティのパトロール班を出し、登山客の安全確保に当たった。奥岳集合八時半。A班は奥岳ロープウェイ↓山頂(9名)、B

第六十八回安達太良山山開きが晴天に恵まれた五月十五日に行われた。三年ぶりの山頂での式典とあって多くの登山者が山頂目指して登って行く。山の会では例年通り、ゴンドラ山頂、くるがね小屋山頂、湯川コース山頂と三コースでパトロール行った。湯川直行組外、全員八時三十分奥岳集合打合せ後、クロガネ小屋組が出発して行く。強風で遅れていたゴンドラが九時頃動き、多くの登山者が乗り込んで行く。合間を見てパトロール隊も乗り込む。私と妻、〇〇〇〇元会長は「雪折」等で、登山道に出ている杖を五く六本位切り、撤去しながら登り、遅れる。仙女平では先発隊が登って行くのを確認



2022/05/15

A班、山頂、12時3分

「今日はお礼を言われた。三月個人山行の時、大きな荷物をソリに積み小屋泊まりの親子三人組、勢至平より下山させたいと会う、お世話になりました、有り難うございました。」

## A班報告(ロープウェイ↓山頂)

報告 〇〇〇〇

四十分以下山、小屋組、湯川組と次々下山して来る。全員集合、会長挨拶後、解散と成る。



恒例の レストハウステラス写真、15時53分

B班 (くるがね小屋) 山頂

報告 □□□□



B班、小屋分岐、14時16分

奥岳駐車八時半集合、駐車場の混雑が予想されるため、早めに自宅を出発。案内の定、駐車場満杯で手前の道路脇に駐車した。今年、県外から登山者が多いなど思いながら、集合場所に向かう。風が強く、ゴンドラの運行が遅れているため、多くの登山者がゴンドラの運行開始を待たず登山開始。参加メンバーがそろった時点で打ち合わせ、A班、B班に分かれパトロール開始。B班は□□さん、□□

□の四名で奥岳登山口を出発し、くるがね小屋へ向かう。出発時間が遅かったこともあり、登山者が意外と少ないかもと言いつつながら旧道を登って行く。八の字分岐手前の山頂が見える場所で休憩、登山道深く掘られているが、意外と乾いていて上りやすい。八の字に着し、ここで□□さんから、英語での案内に間違いがあり。わかりませんが、さりと読んで、その場では気が付かず、(GoesがGoesにな

っている?) 八の字から勢至平付近の登山道沿いにはシヨウジョバカマが綺麗に咲いていて、楽しませてくれた。峰の辻分岐で軽く休憩、その場所の大きな石があり、上部に多数の穴が開いたのか? □□さんからの質問。昔は、石の上部付近まで土で覆われていたそう、その上を水が流れ、小石などにより浸食され穴があいたそうです。湯桶が通っている付近の登山道に亀裂が入っているのに気付く、大きな地震などがあれば崩れる可能性があり要注意。塩沢からの登山道入り口のロープが外れているか気にしながら進み、外れているのを確認し一安心。小屋付近の湿地帯に水芭蕉。(他所から移植したらしい。・) 十一時過ぎに、くるがね小屋に到着。意外と小屋を利用する登山客がすくないのに驚きながら休憩、昼食をとることにした。十二時過ぎ、C班の□□□□さんと無線で連絡、現在位置確認。到着待たずにB班、山頂目指して出発。くるがね小屋から峰の辻までの斜面にも残雪があり、注意して進む。峰の辻に到着と同時に下山してきたA班と合流、記念写真撮影後、牛の背に向かう、途中の斜面に白い小さな花が咲いている。花の名前を聞いたが思

い出せない。強風に備えて、



B班、牛の背、13時34分

一枚多く着込む。牛の背に到着すると、すでに下山してしまったのか意外と登山者が少ない。少し強い風を感じながら山頂に向かう。ちよろび十四時に山頂到着。□□会長がテントを撤収したところ、山頂付近にも登山者は少ない。C班と山頂で合流し情報交換。その後、B班は奥岳目指して下山開始。大斜面付近の残

雪が多く、登山道に雪解け水が入って、それが仙女平分岐まで流れ込んでいて、かなりの悪路となっていて、薬師岳を経由しロープウェイ山頂駅に十五時三十分到着。無事パトロール終了。天候、メンバーに恵まれ、パトロールを忘れさせられるような楽しい山行になった。参加されたメンバーの皆様、お世話になりました。

十六分、三時間ちよと掛かった、九時半出発では遅すぎたかも。反省しています。くるがね小屋では挨拶だけ、B班は出発していった。くるがね小屋の上、水道小屋跡当たりから「ミネズオウ」の開花が見られ、小さいがきちんと咲く

た。十時半、屏風岩。十時五十二分、巨大倒木通過。その当たり対岸は溶岩流の「末端崖」で、見事な「枕状溶岩」状の岩が見られる。その上では「シロバナエンレイソウ」も見付けた。「イワナシ」も咲いていた。正午に天狗の庭橋、ここでは橋の長さ測らねばならない。両側の石の上、支えやすい場所にガムテープで印を付けその間測ったら三四七センチ。石と石の端々同土だと二六七センチ。市役所にも連絡済み。天狗の庭橋、真ん中から折れて石の上に落ちていた。これ以上落ちることは無いと思うが、流されてしまうことはありそうだ、早急な対策求められる。近いうちに「橋掛け」工事有るかもしれない、例会等でお知らせしますので是非ご協力をお願いします。塩沢別れには、十二時二十六分、三時間ちよと掛かった、九時半出発では遅すぎたかも。反省しています。

C班 (湯川溪谷) 小屋 山頂

報告 □□□□

奥岳到着八時半、ロープウェイ券預かって、塩沢登山口へ。登山道整備の時留める、スキー客駐車場は真ん中空けて両側一杯、登山客駐車場も下まで一杯、留めたのは放置されている車の近くになってしまった。C班の二人は既に来ていた。九時二十分登山口発。チゴユリが満開状態。カタクリの種も一杯。雪の回廊

上の、湯川溪谷添いの道では、アズマシヤクナゲが咲いていた。下山して来る登山者にも会った。登山道の状況聞いてみたが、特に支障は無かったという。ペナント欲しいと言われたが、持っていなかった。□□さんが、登山口の登山届出す所に、□□さんが何枚か置いておいたという話したら、納得して下がっていき

きちんと咲く



C班、殆ど登山客のいなくなった山頂 14時18分

五月十日(火)  
個人山行、口太山(山楽会参加)  
報告 □□□□



口太山のパンフレット

今年口太山に登ったの今回で三回目、今回は城山クラブの五月山行に参加(五月十日晴)である。男五人、女七人。お城山駐車場に集合。三台の車に便乗。川俣町からのコースの駐車場の準備体操、リーダーからのコースの説明。入山する。キャンプ場を過ぎ、猿滑の滝あたりから山ツツジが私達を迎えてくれる。乳子岩入口で休憩(乳子岩見に行く)。この先急な尾根を登っていたが、今は右側にジグザグの登山道が出来たので、前よりは少し楽に成った。雑木林の中を進むと、「猿の首取」という岩場になる。このコース一番の難所である。迷い平で最後の休憩、山頂へ予定時間の十一時半に着く。山頂から眺望を野浸み、記念写真を撮り、楽しい休憩時間となる。今まで、何回か口太山に登っているが、山形の朝日連峰を眺望出来たの初めてである。十二時半、石尊神社コースを下り、岩の



「猿の首取り」、猿に見えますか？川俣町のパンフレット、口太山から

ご神体を過ぎると、急な尾根の下り坂と成り、トラロープを頼りに下る。キャンプ場近くには、二輪車の群生地などもある。何年かぶりに、川俣町からコースを楽しみ事が出来た。

五月十五日  
山開き当日写真集



A班、山頂でお祓い



A班、紙吹雪



A班、会長に玉串



C班、天狗の庭橋、347号



C班、碎石坂でA班と合流



C班、アズマシャクナゲ



C班、チゴユリ

このルートは馬車道 This is the route  
または旧道を通って which goes down to the  
奥岳登山口へ下る starting point in Okudake,  
ことができるルート passing along 'Basha Road'  
です。 and the old path.

B班の報告、  
「gose」も「ごせやげる」が、  
「下だる」も間違いでは無い(「下る」)。



C班、ミネズオウ



C班、シロバナエンレイソウ

五月二十九日(日)  
県総体  
クライミング

成年男子は国分V クライミング  
福島の山岳部、五月二十三日紙面  
福島の山岳部、五月二十三日紙面  
福島の山岳部、五月二十三日紙面  
福島の山岳部、五月二十三日紙面  
福島の山岳部、五月二十三日紙面  
福島の山岳部、五月二十三日紙面  
福島の山岳部、五月二十三日紙面  
福島の山岳部、五月二十三日紙面  
福島の山岳部、五月二十三日紙面  
福島の山岳部、五月二十三日紙面

編集後記  
四〇三号

◆湯川溪谷丸札道標設置、五月二十七日の予定が天候不良で六月一日に延期、実はこれ書いていたのは三十一日、明日は降りませんように。  
◆先月は総会、今月は山開き、事務仕事の一番キツイ時期が漸く過ぎた。露ヶ城公園の植物開花の時期で手も目も離せない時期で休めない、疲れた！  
◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。